

# JFL TEACHER EDUCATION THROUGH MICROTEACHING

MIDORI INABA  
(AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION)

## 研究の目的

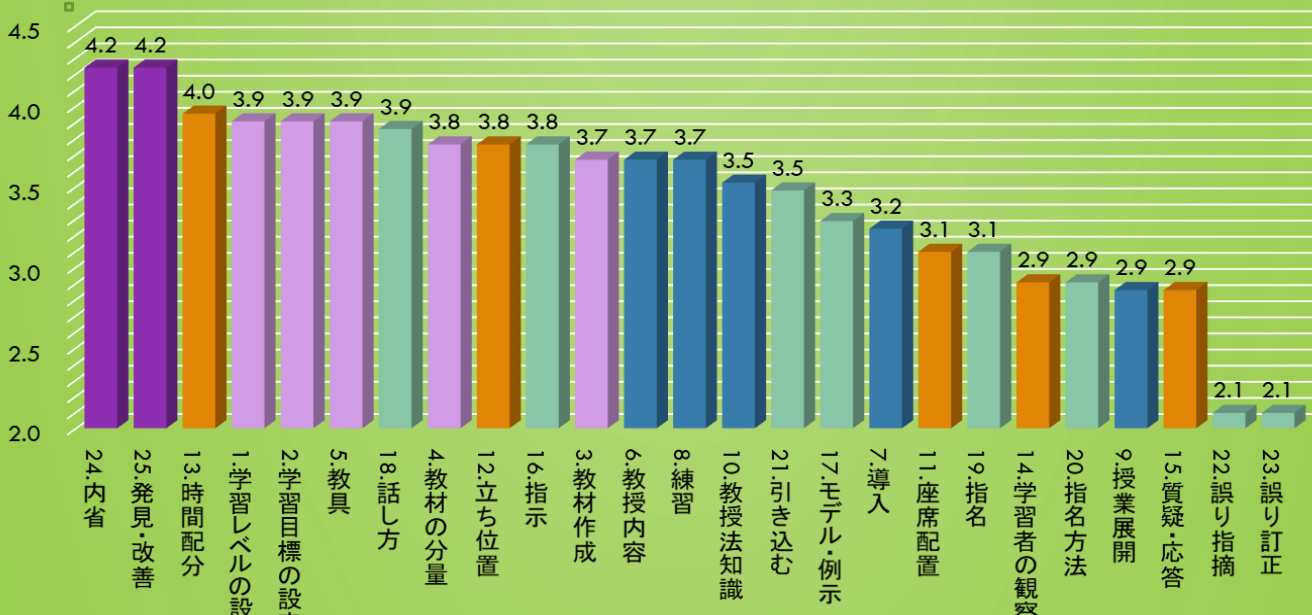
- 本研究では、日本語教育の実践力を高める目的で実施した学部での模擬授業の教育的効果を考察した。
- 模擬授業(マイクロティーチング)では、様々な外国語教授法の理念と特色を踏まえた授業をすることを目標とした。
- ここでは、学生による模擬授業の実践の自己評価に着目した。
- 評価の観点として、「目標」「教材教具」「授業構成」「授業運営」「指導技術」「省察」に関する項目を設定し、5段階で評価させた。
- 結果から、**学生が学んだこと、学べなかったこと**等を考察する。

## 自己評価のフレームワーク

A. 授業デザイン	
1. 目標	(1)学習レベルの設定 (2)学習目標の設定
2. 教材教具	(3)教材作成 (4)教材の分量 (5)教具
3. 授業構成	(6)教授内容 (7)導入 (8)練習 (9)授業展開 (10)教授法知識
B. 授業実践	
4. 授業運営	(11)座席配置 (12)立ち位置 (13)時間配分 (14)学習者の観察 (15)質疑応答
5. 指導技術	(16)指示 (17)モデル・例示 (18)話し方 (19)指名 (20)指名方法 (21)引き込む (22)誤り指摘 (23)誤り訂正
6. 省察	(24)内省 (25)発見・改善

## 設問(1~25)

「1. 目標」と「2. 教材教具」に関する設問	
1 学習レベルの設定は適切であったか。	学習レベルの設定
2 学習目標の設定は明確であったか。	学習目標の設定
3 教材教具の作成・使い方は適切であったか。	教材作成
4 教材の分量は適切であったか。	教材の分量
5 教材は見やすく、分かりやすかったか。	教具
「3. 授業実践」	
6 教授内容(語彙・文型等)は適切であったか。	教授内容
7 授業の導入はうまくできたか。	導入
8 典型的な練習・ドリル・タスク等ができたか。	練習
9 学習者の反応に沿った授業展開ができたか。	授業展開
10 教授法や指導法に関する知識・理解は十分であったか。	教授法知識



## 模擬授業のガイドライン

1. 実施する授業のポイントを示す。  
- 練習・活動・タスク等の特徴・重点等を明確にする。
2. 授業の設定を示す。  
- 想定する学習者の背景・学習歴・レベル・クラス規模・練習時間・教室環境・設備等
3. 学習目標・指導項目・評価方法を示す。  
- 何をどこまで教えるのか、定着の確認方法等
4. 授業の構成・流れを説明する。
5. 教材・教具の作成・機材の準備をする。
6. 工夫した点、苦労した点、難しかった点等。
7. 模擬授業は15分以内、その後ディスカッション
8. 参加者  
- フィードバック(シート)、発表の評価等を行う。
9. 発表後の活動  
- 振り返りの個人レポート作成、リフレクション等を行う。
10. レジューメA4縦1枚/教材は枚数自由(授業の概要と指導案)



## まとめ・教育への示唆

- その結果、目標の設定、教材教具の作成と使用等、教師主導で決定して実行した項目の評価は比較的高かったが、学習者との相互交流を伴う指導技術(質疑応答、誤用への対処等)に関する項目の評価は低かった。
- 要因として、学習者役の学生が日本語学習者の躰く点や誤用等についての知識が不足しており、模擬授業参加時に間違える振り等の演出ができなかったことが挙げられた。
- よって、模擬授業をより効果的に行うには、学習者役となる学生にも課題を与え、学習者の習得上の問題点や誤用の傾向等について十分に把握した上で役に臨ませることが必要である。

4. 「授業運営」に関する設問	
11 学習者の座席の配置は適切だったか。	座席配置
12 授業時の立ち位置・指導の姿勢等は適切だったか。	立ち位置
13 教室活動の時間配分は適切だったか。	時間配分
14 学習者の発話・発言にしっかりと耳を傾けたか。	学習者の観察
15 質疑・応答やインタラクションはうまくできたか。	質疑応答
5. 「授業実践」に関する設問	
16 教室活動の指示は明確に伝わったか。	指示
17 モデル・例示・活動例等を十分に提示できたか。	モデル・例示
18 声の大きさ、話す速さ等は適切だったか。	話し方
19 指名の仕方はうまくいったか。	指名
20 指名の仕方はきちんと考えておいたか。	指名方法
21 学習者を授業に引き込むことができたか。	引き込む
22 誤りの指摘(学習者に気づかせる)が適切にできたか。	誤り指摘
23 誤りへの対処(訂正・有効な指導)が適切にできたか。	誤り訂正
6. 「省察」に関する設問	
24 模擬授業の振り返りができたか。	内省
25 良かった点、改善点等が発見できたか。	発見・改善

## 参考文献

- 小篠敏明(1987).「授業分析・評価の視点—中学校英語科の場合—」『中部地区英語教育学会紀要』17, 145—151.中部地区英語教育学会.
- 村川雅弘(2010).「ワークショップ型授業研究の手法」村川雅弘(編)『ワークショップ型校内研修で学校が変わる 学校を変える』(pp. 62-72), 教育開発研究所.
- 望月正道・小菅敦子(2017).「英語授業研究のためのフレームワーク」『中部地区英語教育学会紀要』46, 141-148.中部地区英語教育学会.

Contact:  
Midori Inaba 稲葉みどり  
mdinaba@uecc.aichi-edu.ac.jp